

東京都小学校国語教育研究会研究主題

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

話すこと・聞くこと部 研究主題

自己充実を目指し、「求めて聞く子」を育成する指導と評価の工夫

第2学年国語科学習指導案

単元名 きいて、きいて、すてきな三年生へむけて
レベルアップ大きくせん！

日時：令和4年12月1日(木)5校時
児童：狛江市立和泉小学校 第2学年2組 30名
担任：狛江市立和泉小学校 主任教諭 足立 朋美
指導者：狛江市立和泉小学校 主任教諭 足立 朋美

1 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うことができる。
- 自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
- 言葉がもつよさを感じ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。	① 「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	① 進んで話し手の話を聞き、見通しをもって、得意なことを紹介し合う学習に取り組もうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級では「1分間トーク」という活動に定期的に取り組んでいる。本活動はまず二人組になり、話し手と聞き手に分かれる。話し手はテーマに合わせて1分間話すことを目標に、聞き手はうなずきながら聞くこと、さらに知りたいことがあったり、話し手が話す内容に困っていたりしたら質問することを目標にしている。本活動を通して児童は楽しみながら話を聞いたり、進んで質問したりする姿が見られている。一方で、質問に対して話し手が回答しても、受け止める言葉が出ず、なかなか対話が進まない様子も見られる。そこで本単元では、最後までだまって聞く・うなずきながら聞くという態度面だけでなく、「話そう」「聞こう」という意識をもって進んで関わり、質問することなどを通して感想をもつことができるよう指導していく。

(2) 話題について（学習材観）

本単元では話題を「みんなと「得意なこと」を話して、聞いて、3年生へ向けてレベルアップしよう」に設定した。2年生になった児童は学校生活に慣れ、様々な活動に取り組むことができるようになってきている。一方で自分の得意なこと、苦手なことを自覚する時期である。そこで「素敵な3年生になるために学校生活で頑張りたいこと」をアンケートする。次に児童から出てきた素敵な3年生になるために、より頑張りたいこと、克服したいことを教室に掲示する。児童は掲示した内容を参考にしながら、自分が頑張っていて友達に工夫を伝えられるものを選び、スピーチにする。出来上がったスピーチは3人組になり「レベルアップ発表会」で聞き合う。聞き合った内容の中から児童は自分が実践できそう、やってみたいと思ったことについてチャレンジカードにまとめる。学級の連帯感が高まっているこの時期に「みんなでレベルアップして素敵な3年生になろう」と投げかけることは、「友達がレベルアップできるよう、一生懸命得意なこと・頑張っていることの工夫を話したい」「友達から、得意なこと・頑張っていることを聞いて、素敵な3年生を目指したい」と話し手と聞き手の目的意識が明確ため、主体的に学習活動を進めることができると考えた。単元名はそのような願いを込めて、「きいて、きいて、みんなの得意をレベルアップ大作戦」としている。

(3) 単元観

- ・第1時では、児童に「素敵な3年生になるために、みんなが学校生活の中で得意なこと・頑張っていることを互いに聞いてみよう」と投げかける。ここで児童が素敵な3年生になるために、どんなことを頑張りたいかを考えカードに書いて掲示することで、第2時のスピーチメモを書くときの参考になるとともに、明確な目的意識をもつことができると考えた。
- ・第2時では、教師によるスピーチのモデル（動画）を観ることで、どのような内容のスピーチをするのか、見通しをもってスピーチメモを書くことができるようにする。スピーチの練習は家庭学習にて取り組む。
- ・第2時、第3時では、話す・聞く活動（「レベルアップ発表会」）を2単位時間設定し、身に付けたい力の定着を図る。第2時の「レベルアップ発表会」1回目では、まずは発表会をやることで、子供達の「話したい」「聞きたい」気持ちを満たし意欲を高めること、そして、やる中で児童自身が気づいた「よい聞き方（態度面）」や「聞き方のコツ（言葉の力）」を吸い上げ、指導事項につなげることをねらいとする。第3時の「レベルアップ発表会」2回目（本時）では、前時の学習を土台とし、「よい聞き方」「聞き方のコツ」を意識しながら聞き手がじっくりと話し手の話を聞くことを意識させ、指導事項の定着をねらいとする。第2時、第3時ともに聞き方モデルを使用するが、聞き方モデルは児童の考えを取り入れながら完成させていく。
- ・第4時では、「レベルアップ発表会」で聞いた友達の「得意なこと」の中から、自分がこれからやってみようと思うものを選んで「チャレンジカード」に書いて交流することで、発表会では聞けなかった友達の話の内容を知る機会とするとともに、学習の達成感を味わえるようにする。

4 研究主題に迫るために

低学年分科会重点

相手の話に関心をもって聞き、感想をもつ

(1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 単元を通して身に付けさせたい力及び単元の目標設定について

低学年分科会が重点とする「相手の話に関心をもつ」とは、相手の話に「聞き浸る姿」であるにとらえる。相手の話に耳を傾け、じっくりと聞いている児童の姿を目指したい。

そのために、「聞く力」の中でも「相手の話に関心をもって聞く」とは、「相手を見て聞く」「うなずきながら聞く」「最後まで集中して聞く」とことと捉え、共感的に聞く力（態度面であり、児童には「よい聞き方」と授業の中で伝える）を身に付けさせたい。

また、「感想をもつ」ためには、共感的に聞くだけでなく、「目的を意識して聞く」「何について話しているかを理解して聞く」「知っていることや知らなかったことなど、自分の知識や経験と照らし合わせながら聞く」力が求められる。その上で、どのような言葉で感想や質問を伝えられるとよいのか、言葉の力（児童には「聞き方のコツ」と授業の中で伝える）を高められるように指導する。

② 主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

・目的意識を明確にする。

「みんなと「得意なこと・頑張っていること」を話して、聞いて、素敵な3年生へ向けてレベルアップしよう」という話題（言語活動）を設定することで、聞き手は「友達から聞いた『得意なこと・頑張っていること』を生かしてレベルアップするために聞く」という目的意識をもつ。話し手は「友達が得意なことを増やしてレベルアップできるように、自分の得意なことのこつや工夫についてしっかり話そう」という目的意識をもって話すことができると考える。自分が話し手と聞き手のどちらの立場である時にも目的意識が明確になっていることで、児童が主体的に学習に臨めると考える。

・対話モデルの提示とめあての設定

「レベルアップ発表会」では、聞き手の態度や言葉を意識できる対話モデルを提示する。対話モデルは最後まで完成したものではなく途中までの状態のものを提示し、児童に「この後、自分だったらどんな言葉を続けるか」を考えさせる場面を設定する。児童から出てきた言葉を活用しながら、モデルの完成を目指す。モデルが完成した後は、児童により言葉の力を自覚させるために、このように児童自身がモデルを考え、めあてを設定し、振り返ることで主体的に学習に

・友達と交流する楽しみや充足感を味わう経験を蓄積することで、話すこと・聞くことへの意欲を高める。

聞き手は自分が上手になりたいことについての情報を友達から受け取ることで、「今度も友達に聞いてみよう」と感じ、話し手は友達のために思考し話すことにより「喜んでくれてよかった。また、話したい。」と感じることで、話すこと・聞くことへの意欲や児童の自己肯定感につながる。その経験が今後の児童の学習や生活における主体的な態度に繋がっていくと考える。

(2) 評価活動の工夫

① 「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

・児童が書いた「メモ」から「話の内容を捉えて聞く力」を評価する。

児童は、発表を聞いた後で、友達がどのような話をしていたのか簡単なメモを取る。指導者は、そのメモによって「どのようなことが児童の心に残ったのか」「聞きたいことを落とさずに聞くことができたのか」、感想をもつために必要な「聞く力」を評価することができる。

・振り返りから「感想をもつ力」を評価する。

児童が友達のスピーチを聞いて、もった感想を「レベルアップ発表会」の中で伝えきことは難しい。そこで授業の最後に感想を入れた振り返りを書くことで、児童がどのような感想をもったのか評価することができる。振り返りを書かせるときには、振り返りを書く視点を「友達のスピーチを聞いて思ったこと・感じたこと」「聞くときにうまくいったこと・いかなかったこと」に絞ることが重要である。

② 教師が指導の改善を図るための評価の工夫

・ICT機器（ICレコーダー、タブレットなど）で録音、録画した児童の交流の様子から指導の改善を図る。

指導者の観察だけでは見取り切れないところを録音や録画によって記録し、子供たちの達成度をもとに次時の指導の改善を図るようにする。

③ 児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

・学習感想の児童の言葉から「何ができるようになったのか」を評価し、児童にフィードバックする。

第2時、第3時の「レベルアップ発表会」の終末に児童が書いた学習感想から、「できるようになった」と児童が捉えていることを指導者が見取る。次時の導入で、児童から出てきた言葉で指導者が紹介（フィードバック）することで、紹介された児童は改めて自分ができるようになったことを認知することができ、その他の児童も「友だちが頑張っているから自分も頑張ろう。」と次の学習への意欲をもつことができると考える。

・「メモ」をもとに書いた「チャレンジカード」を互いに見合うことで、学習の達成感を味わう。

児童が友達の考えについて興味をもって聞き、それらを「メモ」に残すことで学びを積み重ねられるようにする。そして、単元のまとめの活動として「レベルアップ発表会」で聞いた内容を「チャレンジカード」に書き、学級全体で共有することで、友達と話したり、聞いたりした学習に対する達成感や充実感をもって次の学習に繋げることができるようにする。

(3) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では聞き手が話し手を見ながら聞くことや話し手の話に対して反応を示しながら聞くことなど、低学年としての基本的な聞くことの態度面について身に付けさせていく。また、話し手の話に対して聞き手が感想をもつことができるよう、感想や質問の言い方や話し方（返し方）についての技能面も同時に身に付けさせていく。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
一 次	1	1 単元のめあてをもつ。 みんなと「得意なこと・頑張っていること」を話して、聞いて、3年生へ向けてレベルアップしよう		◆ウ進んで話し手の話を聞き、見通しをもって、得意なこと・頑張っていることを紹介し合う学習に取り組もうとしている。 ★発言・ワークシート
		2 3年生に向けて、レベルアップしたいことを考える。 3 考えたことをカードに書き、内容を友達と交流する。	○3年生に向けて、児童がレベルアップしたいと考えていることを「成長の木」として教室に掲示し、児童がスピーチを考えるときの参考にできるようにする。	
	2	1 教師のスピーチモデル（動画）から、話すこと（話し方・内容）に対する見通しをもつ。 2 学習の流れ（学習計画）を確認する。 3 自分が「得意なこと・頑張っていること」の中から友達に伝えたい1つを選んでスピーチメモを書く。	○どのようなことを話すのかイメージをもつと同時に、モデルを動画で見せることで、「聞くこと」への関心を高める。 ○モデルのシナリオ（文字に起こしたもの）から、スピーチに入れる内容（得意なこと・頑張っていること、こつ）を確認する。 ○教室に掲示されている「レベルアップツリー」を参考にしながら、スピーチを考えるよう助言する。	

二次	3	1 本時のめあてを確認する。 発表会1回目	○スピーチの練習は音読の宿題などの課外で行う。聞き手がじっくり聞くことができるように、「間違えずに読む」「声の大きさに気をつけて読む」「なるべくメモを見ないで聞き手を見て読む」などの話し方の観点を示す。	◆ウ進んで話し手の話を聞き、見通しをもって、得意なことを紹介し合う学習に取り組もうとしている。 ★発言・ワークシート
		「レベルアップ発表会」で、友達の「得意なこと・頑張っていること」を聞こう。		
		2 <u>発表会の進め方を確認し、聞き方モデル(動画)を見て、「よい聞き方」について話し合う。</u> ＜進め方＞ ・3人グループで行う。 ・聞き手は話し手の発表に対して感想を伝えたり、質問をしたりする。 ・感想や質問の交流が終わったら、友達のスピーチの内容を簡単にメモする。	<u>いる動画)を見て、進め方を確認するとともに、モデルから児童が気付いた「最後までだまって聞く」「相手を見て聞く」「うなづく」などの態度面のよさを本時の「聞き方」のポイントとして価値づける。</u> ○メモの活用場面(第4時でメモをもとに発表会の感想を書き、クラスで1つの掲示物にまとめる活動)について伝えることで、目的をもってメモを書く活動に取り組めるようにする。 ○どのような言葉で感想や質問の交流をしていたか、指導者が見取ったことや、児童が気付いたことを、発表と発表の間で共有することで、2回目、3回目の発表の中で言葉を増やしていけるようにする。	◆ア身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。 ★発言 ◆イ自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 ★発言・ワークシート
		3 発表会1回目を行う。 ・スピーチが30秒～1分、感想や質問のやり取り、メモを書く活動を含めて、1人の話し手の発表時間は5～6分程度とする。	○本時のポイントである「よい聞き方(態度面)」についての感想を子供達から吸い上げ、「よい聞き方」はお互いに気持ちよく交流するために必要なことであると気付かせる。	
		4 発表会1回目を通して、感じたこと、考えたことを発表する。	○「友達のスピーチを聞いて思ったこと・感じたこと」「聞くときにうまくいったこと・いかなかったこと」の視点で振り返りを書かせるようにする。	
		5 学習の振り返りをワークシートに書く。		
	4 本時	1 本時のめあてを確認する。 発表会2回目		
「レベルアップ発表会」で、友達の「得意なこと・頑張っていること」を聞こう				

	<p>2 <u>モデル（動画）を見て、について話し合う。</u> <u><本時のポイント></u> <u>・感想や質問を伝える言葉を増やす。</u></p> <p>3 発表会2回目を行う。 ・前時から相手を変えた3人グループで発表会を行う。</p> <p>4 発表会2回目を振り返り、自分の聞き方に対する自己評価を行い、学習感想を書く。</p>	<p>○前時で扱ったモデル（教師の実演の録画）を、本時では「言葉」に注目して、もう一度視聴させることで、感想や質問を伝えることに意識をもたせる。</p> <p>○前時の発表会で、児童が伝えていた質問や感想の言葉を「使ってみたい言葉」として、プレゼンテーションのスライドで紹介することで、感想や質問を伝える言葉を増やしていけるようにする。</p> <p>○前時と同じ進め方で、繰り返し発表会を行うことで、身に付けた力の定着を図る。</p> <p>○2回の発表会を通して自分がどのような力がついたのか、自覚できるようにする。学習感想には、友達と交流した際の情意面（聞いてもらえて嬉しかった、友達の話が聞けて楽しかったなど）も表れるような補助質問をする。</p>	<p>◆ウ進んで話し手の話を聞き、見通しをもって、得意なことを紹介し合う学習に取り組もうとしている。</p> <p>★発言・ワークシート</p> <p>◆イ自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもって</p> <p>★発言・ワークシート</p>
<p>課外</p> <p>5</p> <p>三 次</p>	<p>朝の会や帰りの会で、全員のスピーチを聞く。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習を振り返って、「チャレンジしたいこと」を交流しよう。</p> </div> <p>2 単元の学習を振り返って、身に付けた力を確認する。</p> <p>3 「レベルアップ発表会」で聞いた友達の「得意なこと」の中から、自分が挑戦してみたいことをカードにまとめる。</p> <p>4 互いに書いたカードを見合せて、「チャレンジしたいこと」を交流する。</p>	<p>○前時の自己評価や学習感想から、2回の発表会を通してできるようになったことを振り返る。</p> <p>○一人ひとりが書いたカードを模造紙などに貼って掲示し、互いに見合せて交流できるようにすることで、話を聞いていない友達の「得意なこと」を知る機会とする。掲示物に可視化されることで、「たくさん話したり聞いたりした。」という充足感を味わえるようにする。</p>	<p>◆ウ進んで話し手の話を聞き、見通しをもって、得意なことを紹介し合う学習に取り組もうとしている。</p> <p>★発言・ワークシート</p>

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の振り返りを共有し、本時の学習活動を確認する。	○じっくり聞いてもらえてどう感じたか、質問や感想を伝えてもらってどう感じたかについて振り返りを書いている児童がいたら取り上げる。	
「レベルアップ発表会」で、友達の「得意なこと・頑張っていること」を聞こう		
<p>2 発表会の進め方を確認し、モデル(動画)を見て、どのような言葉を使って感想を伝えればよいか話し合う。</p> <p>3 めあてを考え、ワークシートに書く。</p> <p>4 発表会2回目を行う。</p> <p>① 話し手(A)が「得意なこと・頑張っていること」についてスピーチする。</p> <p>② 聞き手(B、C)が感想や質問を伝える。</p> <p>③ ②の交流が終わったら、スピーチや質問への回答を振り返り、話の内容を簡単にメモする。</p> <p>・5～6分程度で時間を区切り、話し手がB、聞き手がA、Cに交代して、①～③を行う。</p> <p>・同様に、話し手をCに交代して①～③を行う。</p> <p>5 発表会2回目を振り返り、自分のめあてに対する自己評価を行い、学習感想を書く。</p>	<p>○前時で扱ったモデル(教師の実演の録画)を、本時では「言葉」に注目して、もう一度視聴させることで、感想や質問を伝えることに意識をもたせる。</p> <p>○前時の発表会で、児童が伝えていた質問や感想の言葉を「聞き方のこつ(使ってみたい言葉)」として、紹介することで、感想や質問を伝える言葉を増やしていけるようにする。</p> <p>○メモは話を聞きながら書くのではなく、交流が終わった後で、話した内容を振り返って書くようにすることで、じっくり話し手の話を聞くことができるようにする。</p> <p>○メモの活用場面について確認することで、目的をもってメモを書く活動に取り組めるようにする。</p> <p>○前時と同じ進め方で、繰り返し発表会を行うことで、身に付けたい力の定着を図る。</p> <p>○どのような言葉で感想や質問の交流をしていたか、指導者が見取ったことや、児童が気付いたことを、発表と発表の間で共有することで、話し手2人目以降の発表の中で言葉を増やしていけるようにする。</p> <p>○「友達のスピーチを聞いて思ったこと・感じたこと」「聞くときにうまくいったこと・いかなかったこと」の視点で振り返りを書かせる。</p>	<p>◆ウ進んで話し手の話を聞き、見通しをもって、得意なことを紹介し合う学習に取り組もうとしている。</p> <p>★発言・ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○概ね満足できる児童への次時以降の手立て</p> <p>詳しく聞いたことや自分の感想について、メモや学習感想に表現するよう助言する。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て</p> <p>話し手の話す観点を振り返りながら、スピーチの内容を思い出してメモに残すよう助言する。</p> </div> <p>◆イ自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。</p> <p>★発言・ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○概ね満足できる児童への次時以降の手立て</p> <p>聞き方のよさや聞き方のこつを用いながら、学習や生活の中で相手の話を聞けるようにする。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て</p> <p>話し手の話の内容を振り返らせ、聞き方のこつを確認することで、感想や質問を話せるようにする。</p> </div>

7 資料

① <第4時（本時）の板書計画>

かんそう ふりかえり	じ分のめあて	モデル	発びよう会のやり方	活どう レベルアップはっびよう会で、ともだちの「とくいなこと・がんばっている」を聞こう。	きいて、きいて、すてきな三年生になるために レベルアップ大きくせん
---------------	--------	-----	-----------	---	--------------------------------------

② 第1時で提示する教師のスピーチモデルの台本

スピーチの台本	内容項目
僕は元気よく挨拶ができるように毎日頑張っています。	得意なこと・頑張っていること
挨拶を元気にすると、友達も返してくれてうれしくなります。	
挨拶週間の6年生をお手本にして、大きな声で、笑顔で挨拶するようにしています。	こつ・工夫

スピーチの台本	内容項目
私は、忘れ物をしないように頑張っています。	得意なこと・頑張っていること
1年生のころはよく忘れものをしてしまい、困っていました。	
したくを前の日にすること、緑のカード（予定表）に印をつける工夫をすると、忘れ物が減りました。	こつ・工夫

③ 第2時、第3時で提示する発表会のモデルの台本

台本	内容項目
A: 僕は元気よく挨拶ができるように毎日頑張っています。挨拶を元気にすると、友達も返してくれてうれしくなります。挨拶週間の6年生をお手本にして、大きな声で、笑顔で挨拶するようにしています。 (B・CはAを見て、うなずきながら聞いている。)	得意なこと・頑張っていること・工夫・こつ
B・C: (拍手)	
A: 質問や感想はありますか。	
B: 私は朝が苦手なのですが、朝、元気よく挨拶するにはどうしたらいいですか。	質問
A: 前の日に早く寝ています。あと、朝、起きたときに腕を回すと目が覚めます。	回答
B: なるほど。腕を回すのはできそうなのでやってみます。	受容・感想
C: これからもっと挨拶をよくするために、頑張りたいことはありますか。	質問
A: そうだな。 友達じゃない人にも挨拶ができるようになりたいです。	回答
C: ()	

④ ワークシート

第2時

③ ふりかえり

--	--	--	--	--	--	--	--

② 友だちに話したい「とくいなこと」を一つえらんでスピーチメモに書こう。



④

二年組 名前()

きいて、きいて、すてきな三年生へむけてレベルアップ大きくせん！①

国語 話す・聞く

第3時・第4時

③ ふりかえり(この時間がんばったこと、めあてができたか、つぎの時間がんばりたいこと)

② ともだちのはっぴようを聞いて(かんそう)

・ あだち ()さん
とくいなこと・がんばっていること
() あいさつ ()
・ えがおて
・ うてままわすと目がさめる

1 () ()さん
とくいなこと・がんばっていること
()

2 () ()さん
とくいなこと・がんばっていること
()

① ともだちのはっぴようがおわった後、どんなことを話していたかメモしよう。

④

「レベルアップはっぴよう会」でともだちの「とくいなこと・がんばっていること」を聞く。

二年組 名前()

きいて、きいて、すてきな三年生へむけてレベルアップ大きくせん！②

()

